

残暑厳しき中にも、そこここに秋の気配が感じられる今日この頃でございます。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶かたがたダイレクトメール秋号をお届け申し上げます。

前回夏号で、本年末をもって東京での特別広報活動を終了しますとお知らせしました。前回は、「大世直し」自体を断念したのではございませんのでご安心ください。

大世直しの目的が、全人類の存亡に直結する「環境問題の抜本的完全解決」である以上、そんなに簡単に諦めてしまふ訳には行かないのでございます。

大世直しそのものを断念するか否かの最終判断は、次代徳仁天皇なるひとが、その即位式で全世界に向けて発せられる「お言葉」を待ってからでよいと考えております。

——はたして「覚者」の至言となるか、はたまた「亡者」の戯言たわごとで終わるか。

さて皆様、今回秋号の主題は、こんな大世直し関連の話ではございません。

大世直しが有ろうが無かろうが、この国が総人口激減という前代未聞の非常事態に突入しつつかあることは、紛れもない悲劇的現実でございます。

就労人口激減、消費人口激減、こんな全く未体験の恐るべき経済環境に、わが播磨屋本店はどう対処するのか、その予告こそが本号の主題なのでございます。

弊社は、自らの身を削って生き抜く「縮小均衡の道」を選ぶことに致しました。

当然お客様各位にも、ご不便やご迷惑をお掛けせざるを得ませんが、事情ご賢察の上、何卒ご容赦ください。詳細は、同封小冊子の7・8ページをご覧ください。

ともあれ、またいつものように秋のご用をおうかがい申し上げます。

おすすめは、断然リーズナブルな秋の超徳用袋まつりの品々でございます。

平成二十九年 九月 　　つりふねそう咲くころ

あるじ 播磨屋助次郎 敬白